

## まえがき

ゴルフ場は本来、プレーを楽しむ人々に望ましい芝生と修景を提供することを目的に造られた施設であり、環境保全的な視点からはともすればネガティブにとらえられがちでした。しかし、維持管理の整った芝地と森林からなる広域緑地としての存在は、昨今の気候変化や気象異変と無計画な管理による全国的な緑地機能の衰退と劣化が著しい中であって、生態系・生活環境上の重要な社会資産として再認識・再評価されるべきものと考えられます。

一方、21世紀の森林環境悪化の原因の一つとして、80年代の大企業によるリゾート開発など森林を対象にする投機が列島規模で行われ、森林の26万ヘクタールもがゴルフ場などの非林業的利用に転用される事態に見舞われてきたことが挙げられています。そして、ゴルフ場開発は、森林環境のシビアな問題として、「森林の破壊による各種公益的機能の崩壊をもたらすだけでなく、わが国の気候や地形にそぐわない単一植生の芝生を維持する手法として農薬の多投入が行われ、それによる大気汚染や土壌汚染、さらには河川、地下水などの汚染を引き起こすものであり、60年代のあの公害問題と同様の事態を長期に再現させる状況を各地にもたらしている」と記載されているのです（山岸清隆、2001. 森林環境の経済学）。今日、森林の内部崩壊による環境問題を列島規模で引き起こしている事態の中にあっては、事実誤認であることはだれの目から見ても明らかですが、このまま放置しておいてもいいと云える問題ではありません。

しかしながら、ゴルフ場が社会・経済的に付加価値を持つ前提としては、環境問題の加害者としての無罪主張ではなく、地域の生態系サービス向上に寄与する存在であることをゴルフ場が自ら認識することが不可欠です。そして、この付加価値化は、植生維持の明確なゴール設定と、それを可能にする優れた費用対効果を持つ管理によって成り立つものです。さらに、昨今の気候変化や温熱化現象に伴う侵略的雑草木のゴルフ場緑地への拡大も危惧され、地域レベル

での共有と対策が求められます。

このように、ゴルフ場は今日、その緑地環境的存在価値と、その価値を実現・持続するための植生管理の両面において、“新しい視点”で再考すべき局面を迎えています。

本シンポジウムは、ゴルフ場の重要な「自然資本」と「人的資本」の活用を付加価値化という観点で、そのビジョンと現実の折り合いをゴルフ場運営・管理に関わる多様な関係者で模索し、共有する契機にしたいと思います。

2013年11月

NPO 法人緑地雑草科学研究所

シンポジウム運営委員長 伊藤幹二

# 目 次

ゴルフ場のもつ多面的緑地機能…………… 1

伊藤幹二 (NPO 法人緑地雑草科学研究所)

意外と知られていないゴルフ場の森の秘密…………… 21

田中淳夫 (森林ジャーナリスト)

草木の動きを知ってこそその最適植生管理…………… 27

伊藤操子 (京都大学名誉教授/

マイクロフォレストリサーチ株式会社)

関東地区ゴルフ場の植生管理の実態：アンケート調査報告…………… 42

NPO 法人緑地雑草科学研究所